

記念対談 議会だより200号を迎えて

「議会だより」は、昭和53年11月25日に創刊しました。主に定例会ごとに、議会の様子や議員活動などをお知らせしてきましたが、前臨時号で200号を迎えました。

現在、「議会だより」の発行に尽力されている新議長・新広報常任委員長、これまでご活躍されてきた前議長・前広報常任委員長に「議会だより」についてそれぞれの想いを語っていただきました。

1. 200号の発刊に際し、それぞれのお気持ちをお話ください。

小林信二議員：議会だよりは昭和53年の11月に創刊され、47年を迎える。また、平成15年の2月に100号が発行され、それから22年で200号になった。自分も議員になって22年だが、初めの頃は議会だよりの編集について発言などはできなかったことを思い出す。

山口菊一郎議長：私も長く見てきているわけではないけれど、「広報はが」と同じ日に発行されるということで、内容が被らないようにすることが難しいところ。

黒崎浩一議員：それぞれの気持ちもあるけれど、今までの変遷についても知りたい。小林議員は議員歴が長いから昔の議会だよりはどうだったか。

小林議員：長い歴史を経て、紙面も変わってきたと感じている。以前は文字が多かったが、最近はイラストや写真などもたくさん取り入れられている。

議員になる前は自分も議会だよりをほとんど見ていなかった。町民もそんなに見ていなかったと思う。

黒崎議員：もっと分かりやすく議会活動を載せたほうがよい。

山口議長：一般質問もそうだが、議案の議論した中身、予算審議や補正予算など、要は議会の内容をもっと細かく載せてもよいのではないかと。

有坂隆志議員：町民の方々が面白いと思うピックアップ



有坂隆志前委員長



黒崎浩一委員長

ニュースを多く載せるのがよいと思う。重要な内容などは、もう一度聞きたい、もっと詳細に聞きたいなどの声があればそれも載せていくこともよいのではないかと。

山口議長：活発な質問が行われ、議論が深まった議案などがあった場合は、積極的に載せていきたい。

黒崎議員：議場での会議の内容という、目の前のものだけでなく、側面的な部分、つまり、議場以外でも議員がどのような活動をしているかなどを載せていくのもよいのではないかと。

2. 議会だよりの発行にあたって苦労したことや心に残っていることはありますか。

小林議員：苦労したことは各地区で「^{こえ}聲～私のいいたいこと～」コーナーの原稿を書いてもらうのに人選が難しいこと。地区が偏らないようにしないといけないから。

第1号	第5号	第50号	第57号	第93号	第100号	第113号
(昭53・11・25) 議会だより発刊によせて・ 9月定例会報告・ 目で見える傍聴席(一般質問) (B5版)	(昭54・10・2) カラー表紙となる	(平2・9・1) 6月定例会報告・ 町民会館請負契約20億78百万円	(平4・5・28) A4版となる	(平13・6・1) 初の女性議長誕生	(平15・2・22) 創刊100号記念特集・ 芳賀町水道事業の設置に関する 条例等を廃止	(平18・2・15) 議員定数20から16に条例改正
						
第1号	第5号	第50号	第57号	第93号	第100号	第113号



小林信二前議長



山口菊一郎議長

有坂議員: その地区に議員がいないと、その地区からの人選が難しい、なかなか原稿を頼むことができないなどの課題がある。各自治会長さんから声をかけてもらうことはできないだろうか。

山口議長: もちろん議員が自ら人選し、依頼することが前提であろう。その上で、議員がいらない地区に関しては、その地区の住民をよく知る自治会長さんから推薦してもらったり、声をかけてもらったりをお願いするのはひとつの手だと思う。

小林議員: 他にも一般質問を字に起こすことが大変だった。会議録のデータから文字を起こすのだが、内容をまとめて文章に起こすということは労力がいる。

有坂議員: 文字数の割り振りもある程度決まっている。議員によって一般質問の長さも様々だから、どの部分をピックアップするのか、それを校正していくのかも難しいと感じる。

黒崎議員: ページの構成も難しい。時節に合った写真や内容を考えなければいけないところも苦労するポイント。

3. 今後どのような議会だよりを目指していきたいですか。

山口議長: 作成に当たっては、一般質問の文字起こしが大変だとのことなので、それに関してやり方を考え直し、

改善していきたい。そして一番は議会だよりを読んでもくれる町民の皆さまに分かりやすく、面白いと思ってくれる内容をピックアップしていきたい。

小林議員: まず、なかなか町民の方に手に取ってもらえない。議会だよりに対しての質問やよかったとか、ダメだったとかの評判が耳に入っていない。まずは見やすく、興味の持てる構成を考えていくことが必要なのではないか。

有坂議員: 見やすくという意味では、文字ばかりでなく、写真や図を多く載せていきたい。

黒崎議員: 選挙の年齢が引き下がったからこそ、選挙権のある若者に見てもらえるような内容にしていきたい。若い人が選挙への興味が低く、投票率が低いという現状なので、その課題解消の一助になるような広報づくりをしていきたい。

小林議員: QRコードも使えるから、紙面に限らず、インターネットを介しても見られるということを発信していきたい。

山口議長: まずは、町民の皆さまに興味を持って見てもらえるような工夫を今後していきたい。



▲今回対談していただいた皆さん

第136号

（平23・5・26）
議員会有志による被災地支援

第138号

（平23・8・23）
芳賀チャンネル開局・
議会映像配信開始
「東日本大震災復興支援
推進協議会」発足

第150号

（平26・5・24）
議員定数16から14に条例改正

第163号

（平29・5・1）
全ページフルカラーとなる

第200号

（令7・6・1）
臨時号 新体制決定



第136号



第138号



第150号



第163号



第200号

